私の道程（みちのり）

奈良県立畝傍高等学校　定時制課程二年　姫野　智里

私は現在２３歳の、畝傍高校定時制に通う高校２年生です。これから話す事は、ここに辿り着くまでの私の道程（みちのり）です。私は、幼稚園の時、小児喘息という病名を告げられました。風邪をひくたび、喉の器官が狭くなり、息が苦しくなる病気です。そのため、小学校に入ってからも喘息が毎日のように起こり、病院に行っては点滴を２～３本打ったり、症状の悪い時は１週間入院したりと、入退院を繰り返していました。そのためか、勉強についていけず、友達もいませんでした。

小学６年生になると、いじめが始まりました。教室のドアを目の前で閉められたり、遊びの仲間にも入れてもらえず、誰も口をきいてくれませんでした。そして、そのまま中学生になり、２年生の２月、大阪から奈良に転校してきました。転校した当初は、それなりに友達もでき、楽しい日々を過ごしていました。しかし、あるちょっとした喧嘩がきっかけで、またいじめにあいました。それまで仲良くしてくれていた友達は、幼稚園の頃からずっと一緒に過ごしてきた相手の味方につきました。私には誰一人として味方はおらず、朝「おはよう」と言っても無視されました。そして、体育館裏に呼び出され、「お前なんて消えてしまえ」、「何で生きてるの？」と言われ、最後には「死ね」と言われました。

それからの私は、全く学校にいけませんでした。そのため、普通の高校には行けず、大阪にある通信制の高校へ進みました。しかし、そこでもいじめがありました。一人の男の子がいじめられているのを見て、私は何もできず、悲しさとショックで学校をやめました。その翌年、奈良にある通信制の高校へ友達と一緒に入学しました。ですが、それも長続きせず退学。それからは、バイトを転々とする日々が続きました。そして、ついには２年間にもなる引きこもりになってしまいました。

外にも出ず、バイトもしない。家の中で毎日のように「どのように死のうか？」、「私は生きている意味がない」とネガティブな事ばかりを考え、１０代では珍しい十二指腸潰瘍という病気になってしまいました。胃の入り口部分にナイフで切った様な跡があり、そこから出血し、貧血が起こりました。一週間、点滴から栄養を摂るだけで、口に食べ物を入れることが出来ませんでした。これも全て、精神的なことからきているらしく、うつのような症状もあるとまで言われました。この頃の私は、生きる希望もなく夢なんてものも無く、先の人生を考えるだけで目の前が真っ暗になりました。

そんなころ、２０歳になっていた私に、ある知り合いの人が、畝傍高校定時制を教えてくれました。その時の私は、社会における中卒と高卒の差を痛感していました。ちょうど同じころ、中学３年生だった私の妹も学校に行っていませんでした。そのことも

あり、妹と一緒に、１０代の頃にできなかった高校生活を取り戻し、将来の自分のために高校の卒業資格をとろうと決意しました。その決意は、今までの私の生き方を変え、少しずつ形あるものになっていきました。

現在、２年生は７人という少人数ですが、妹と共に楽しい日々を過ごしています。クラスの皆も優しくて、年齢が違っても同期として受け入れてくれるので本当に感謝しています。そして、今年からは高校卒業程度認定試験にも皆で挑戦しました。そのことで、より一層クラスの団結力が強まったように感じます。担任の先生も、「もし皆が３年で卒業してしまったらどうしよう？！」と嬉しそうに笑いながら言っていました。これも、周りの先生方や家族の支えがあるからこそ出来た事だと思っています。

振り返ってみると、こうして皆様の前で今までの出来事を話す日が来るとは思ってもいませんでした。今でも、この舞台に立っている事が不思議なくらいです。今思えば、１０代の頃に良い思い出なんてものは正直ありません。ですが、自分が歩んできた道程（みちのり）を恥ずかしいとは思いません。それは、色々な経験をしたからこそ今の私がいると思うからです。この先、きっと誰もが「生きているのが辛い」と思うかもしれません。しかし、私は思います。それは、「生きていたいから思うこと」だと。私は、これからも初心を忘れず、畝傍高校定時制で、クラスの皆と先生方、そして家族と共に、明日に向かって頑張っていきます。

最後まで聞いていただき、ありがとうございました。